

税の作文 受賞作品紹介



中学生 作文の部

和歌山県祖税教育推進連絡協議会賞

「税金」のこれから

湯浅中学校三年 宮本 崇宏



中学生に入ってから、税金について考える機会が増えた。一年生の時は、税についての授業を受ける中で、僕達中学生の身の回りには、学校や病院など、税金が使われている場所がたくさんあるというところを知り、二年生の時は、本を借りても勉強してもお金のかからない図書館に疑問を抱き、税金が活かされているという答えを知った。しかし、税金の

役割は、これだけではない。今回は、今の僕にはあまりなじみがないが、これから先僕も関係するかもしれないし、今後重要視されていくであろう「あるもの」について、探っていこうと思う。

現代、日本では「人口減少」が長い間問題視されている。その中でも、「少子高齢化」という言葉は、最近よくニュースなどで耳にするようになった。また、三年生から始まった公民の授業でもよく出てくる語句の一つである。その「少子高齢化」の中でも、「高齢化」に焦点を当て、税金について考えてみる。

以前、社会科の先生から、「和歌山県は全国でいちばん介護施設が多い都道府県である」と聞いたことがある。僕の住む湯浅町にも、いくつもの介護施設や福祉施設がある。その中には、友人の祖父や、近所の人も入所しているが、僕の親戚の中に、介護施設に入所している人はいない。そのため、じっくりと介護について考えることはあまりなかった。

しかし、介護施設は僕達中学生にとつて無縁の関係のものではない。僕が将来介護施設に入所したり、あるいは両親が入所したりすることもあり得る。また、この先、ますます高齢化が進むとみられる日本では、介護施設が増えていくと思う。

湯浅町長賞
「税」の未来
湯浅中学校三年 柳野 潤太



そんな介護施設にも、税金は使われていた。「介護施設に入所するときにかかるお金の一部」に、税金が使われているのである。

「税」の未来
湯浅中学校三年 柳野 潤太

仮に、入所にかかるお金の全額を個人で負担しなければならぬとしよう。これでは、「お金も高いし、やっぱりやめよう」という人も少なからず出てくるはずだ。つまり、気軽に入所することができない、ということである。高齢化社会の今だからこそ、気軽に入所できる介護施設が必要なのである。そのため、入所にかかるお金の部を、税金で補償してもらえなければならない。

今年の十月に消費税が上がリ、高くなる物価に不満を抱いている人もいるかもしれないが、自分が将来お年寄りになったとき、あるいは身近な人が介護施設に入所するとき、税金が助けてくれる一面がある。介護施設だけでなく、はじめに述べた日常のさまざまな場所で税金は活用されているということを念頭に置いて生活していきたいと思う。みなさんも、税金の「これから」について、もう一度じっくり考えてみてはいかがだろうか。

経験したことのないほどの急スピードで「少子高齢化」が進行していて、それに伴って現役世代が高齢者を支える社会保障の面で税のシステムが危機に直面している。実際、僕の暮らす町でも、若者より高齢者の姿をよく見る。税のシステムの未来のため、納める側はきちんと納め、行う側はきちんと税金を使うといった信頼関係はもちろんだ、これからの税を「ともに」考えなければならぬ時期に僕達は直面している。だから、まず、自覚をもつことからはじめようと思う。

高校生 作文の部

和歌山県祖税教育推進連絡協議会賞

税について考えたこと

有田中央高校一年 亀井 光咲



人間は水がないと活動できなくなり、また、同じように税金がないと

社会が活動できなくなり、人間にもいくつかの栄養素があるように税金にもたくさん種類がありますが、欠けてしまうと過「しやすすく安定した社会にはならないのです。だから税金は無くしてはならないのです。税金は私たちが納めています、私たちのためにも様々なかたちで使われています。税金が最も多く使われているのは社会保障関係費ですが、医療や年金、介護、生活保護、社会福祉など私たちが高齢者になっても安心できるようにするために、私たちが安全に暮らすための警察や消防、私たちが健康に過ごすための環境衛生や公立学校に通う児童、生徒の教育費など、私たちの生活を税金が支えてくれています。

税金と聞いて身近に思い浮かべるのは消費税だと私は思います。なぜなら消費税はテレビなどのメディアでとりあげられていたり、自分が買っている際に自然と知ることができているからです。だから、小学生でも消費税という言葉だけは知っていると思います。しかし、消費税は身近な税でありながら、あまり好まれていないと思います。そこで、消費税のメリットとデメリット、消費税について考えてみました。消費税のメリット二つ目は、少子高齢化社会で働く若者だけが負担を背負うのではなく、所得は少なくとも貯蓄はある高齢者にも課税できるので公平な税だということです。二つ目は消費税が増税

されても働く意欲が低下しないということです。所得税のように累進課税で働けば働くほど税率が上がるとは全く、消費税は増税はあつても税率が常に変わることはないのです。所得税率に働く意欲の低下にはならないと思つたのでメリットだと考えました。次にデメリットを考えてみました。二つ目は、消費税の増税は消費者と低所得者への負担が増えるということです。私は母子家庭なので消費税が五パーセントから八パーセントに増税されたときに家計に負担が増えたように感じました。二つ目のデメリットは、増税により消費者の消費が減り、企業が負担を背負うことです。三つ目は、増税前の消費者による駆け込み需要の反動で景気が悪化してしまうということです。しかし、これはメリットでもあると思います。なぜなら、消費者は増税前に買いたい物を多くしようとするので、二時的に景気が良くなるからです。ですが、反動が大きいとデメリットになってしまうので、メリットかデメリットで決めるのは難しいと思つていました。

このように私が消費税について考えようと思ったきっかけは、身近な税であるのに詳しく知らなかったことと今年、消費税を十パーセントに増税というニュースを見て気がなつたからです。今までは税について学習し知識を得ても何となく納めていましたが自分たちが社会を支えると感じ納めたいと思つてきました。

実際、僕自身も普段使っている水道や道路、公共施設、教育や医療なども無料または安いお金で利用できるのも、この税のシステムのおかげである。こんな素晴らしい税のシステムだが、今まさに危機に直面している。その原因が「少子高齢化」問題なのだ。この問題によつて、医療や年金、介護に福祉まで、高齢の方々を支える、いわば税の担い手の二十〜六十五歳の人が減り、六十五歳以上の人が増えている。これによつて、若い人たちの負担が重くなり、高齢者の老後の支援が減ってしまうかもしれない。そして、恐ろしい話だが、このシステム自体が、維持できなくなり、破綻してしまうかもしれない。こういった未来だ想像もできない、大きな不安が漂っているのだ。

これに対し、政府は消費税率アップで対応しようとしているが、これは年々急激に増大する社会保障費を相手だと、二時的な応急処置に過ぎないのかもしれない。

この大きな問題、危機に対して、現役の人たちもそうだが、将来を担う僕たちも税のシステムとこの問題についてしっかりと学んで、自分なりの考えを持たなくてはならないのだ。しかし、まだ中学生のため、実際にたくさんのお金を負担していないから現実味がわいてこないところもある。だから、まず知ることだけでもいいのだ。このように、現在、日本では他の国が